

青山学院高等部での礼拝と

ワークショップ「国際機関による平和構築とコミュニティ再生」

参加報告書

日時：10 月 3 日（火）朝の礼拝とワークショップ（4 時から 6 時）

場所：青山学院高等部

AFICS-J 参加者：山本 和、山崎 節子

青山学院高等部参加数：登録人数 90 名、参加者およそ 75 名

青山学院高等部担当者：藤井 徹也教諭

背景：山本会員が青山学院高等部よりグローバルウィーク週間に朝の礼拝のメッセージを送る依頼を受け、また同日の放課後のワークショップへの参加を要請された。

準備の経緯：4 月 25 日に AFICS 参加者二人が打ち合わせをし、国連の 3 つの目的を柱にワークショップの内容を詰める大筋を設定した。6 月 12 日に青山学院高等部担当教諭と面談し、グローバルウィークの目的や学校側の意向を伺い、今回のテーマは「コミュニティ再生」である事の連絡を受ける。この要望に応え、タイトルを「国際機関による平和構築とコミュニティ再生」とし、時間配分を相談。9 月にグローバルウィークのパンフレット用のポスター、プレゼンテーションを作成。生徒の司会希望者を募り 3 人が選ばれた。当日、礼拝でのメッセージと資料を配布。下準備には最初の打ち合わせからおおよそ 5 か月要した。

礼拝：山本が朝の礼拝の時間に全校生徒 1200 人に向けて、平和のメッセージを 8 分ほど送った。（添付資料参照）

ワークショップ概要：放課後 4 時からのワークショップは 50 分の二人のプレゼンの後、40 分の全体での質疑応答、さらに 30 分の個別のアドバイスで構成した。内容は国際機関による平和構築とコミュニティ再生に焦点をあて、前半のプレゼンテーションでは、国連の目的、国連システム組織を紹介し、それぞれの経験を、平和構築、人権、開発の国連の 3 つの柱の枠組みで紹介し、持続可能な開発目標、コミュニティ再生、カンボジアの事例、UNICEF の子どものための世界サミット、アフガニスタンへの訪問、IMF の仕事等を織り交ぜて話をした。

後半は生徒がその場で提出した質問を司会者が回収分類し、司会者が選んだ質問に回答する形をとった。ワークショップ終了後も個別の生徒の質問に対応し、アドバイスをした。生徒の質問の詳細は下記参照。

生徒の関心は、国連での仕事内容、国際公務員になるまでの経緯、国際機関内の連携、平和構築、彼らの今できる事などにあった。個別の質問では、学業と進路のアドバイス、女性のワークライフバランス、JPO の応募方法、開発の仕事、国際公務員の立ち位置（母国との関係）などがあった。

教員からのフィードバック（藤井徹也先生、相良昌彦先生）：相良先生は朝の礼拝の司式をして終日参加。校長先生も礼拝とワークショップ両方に参加。教員と AFICS の講師との意見交換の機会があるといいというコメントをいただいた。藤井先生からは、“参加生徒たちは国際コミュニティーが今、必要としているものをしっかりとイメージできたようでした。また、国連活動を通して、平和を実現されてきた先生方の熱意が十分に伝わりました。”とのフィードバックをいただいた。

後記：

国連の 3 つの目的を理解してもらってから、その枠組み中で国連の平和構築、人権、開発の活動を複数の元国際公務員が実体験を交えて紹介するのは効果的だと思われる。今回はプレゼンターが二人で時間の余裕もあり、ある程度の内容を盛り込むことができた。参加者の多くは今何をするべきかということに関心があった様だが、国連の多角的活動や SDG s の多面性を総合的に俯瞰する必要性を理解してもらえると、答えは一つではないことがわかるのではないかという印象を受けた。

参加人数が多く大教室で行われたワークショップだったが、回収された質問からは参加者の深い理解力、鋭い洞察力と平和に対する真摯な態度が窺える。学校側の要望はディスカッションをすることであったが、時間的余裕と準備が必要とされる。

添付資料：

朝の礼拝でのメッセージ、パワーポイントプレゼンテーション 2 部、参加者からの質問

参加者からの質問 （全質問 67 個中重複除く）

平和

- 恒久的平和は実現するのか
- 平和を実現するために高校生ができることは何か
- 世界平和のために国際公務員でなくとも、私たちに何ができるか
- 国連やボランティア活動にプラスのイメージを持つには、どのような方法があるか
- グローバルな視野を持つために、高校生活のうちにしておいたほうが良いことは何か
- SGH で外国との交流や英語を学ぶ機会が多いが、そういう活動に参加すると将来どのように活かされるか

日本

- 世界から見た日本—経済的に世界で優位でも、人々の価値観等グローバルではない日本人特有の考え方はあるか
- 海外でどんな和食を恋しく思ったか

国際公務員

- 国際公務員の日本人の割合
- 将来の国際公務員数増減の展望
- 国際公務員の仕事をする上で必要な能力は何か（リーダーシップ、計画性、言語面）
- 国連で働くための心理面の心得
- 国際的に諸外国、言語、文化に関わる職業、活動に関わりたい者への助言
- 国際公務員になりたいと思ったきっかけは何か
- 国際公務員に必要な専門分野とはなにか
- 国際機関で国籍や母国をどう感じるか。日本との関係。
- 国連、IMF の仕事でやりがいを感じた時はどういう時か。国連の 3 つの目的に貢献できた仕事は何か
- 国際公務員で一番苦しかったことは？
- 赴任国で現地の人と関わり方について気を付けることは何か
- 交渉、ミッション達成の苦労話
- 一番記憶に残る仕事
- 赴任国での価値観の違いの経験
- 違う部署を選べたら、何をえらんだか
- 安全面で危機を感じたことはあるか
- 理系の学生ができる仕事はなにか
- UNICEF に興味を持っているが、いま簡単な形で寄付以外にどのように関わるれるか
- 小さいときから海外で働きたいと思ったか
- 国際公務員になるために今やっておくべきこと
- UNDP に興味があるが、大学で何を学べばよいか
- 大学で、国際政治ないし国際経済を学ぶ、それぞれの良さ
- 国際公務員になるためのルート
- JPO 制度について詳しく知りたい
- 一般企業からの国連への就職

開発

- 貧困の撲滅の定義とは何か
- 持続可能な開発の具体例
- 日本の財産的負の連鎖（所得格差により教育機会の不平等がさらなる格差に繋がる）は世界でも問題か

女性職員

- 女性が働くという点で、日本と国連で感じられた違い

言語とコミュニケーション

- 公用語
- 英語以外の言語能力
- 仕事での言語問題
- 赴任地の言語の必要性
- 理解しやすい英語にするには、どのような方法があるか

経験 ライフスタイル 生き方

- 山本さんがインドに一人旅をしようと思った理由。なぜアメリカやヨーロッパでなくインドだったのか。どんな経験があったか カブールの日本人とどんな話をしたか
- 帰国後インドでの話に共感を得たということだが、どういう活動の話をしたのか。
- 大学在学中、インド旅行以外にしたことで、その後の仕事に役立ったのは何か
- 今は、どこへ行くのが最良か
- ほかに人には負けないと誇れる自分の武器はあるか
- 夢を持って仕事をするのは感動的だが、夢や目標がない状況に陥ったら、何を目指していけばよいか
- 夢を追いかけている途中で、新しい夢を持ったことはあるか
- 仕事をしていく上で、やっておいてよかったこと、やっておけばよかったこと